

こんにちは 町長です

～埼玉県立小鹿野高等学校の存続について～



埼玉県立小鹿野高等学校(以下「小鹿野高校」という。)は、戦後間もない昭和23年4月に開校以来、西秩父地域で唯一の高校として本年度74年の歴史を数えます。

この間、小鹿野高校は多くの卒業生を輩出し、卒業生は町内外で活躍していらっしゃいます。近年になり地域の過疎化少子化の影響や、秩父地域外にある私学の高校の人気の高まりなどから小鹿野高校への入学者が減少してまいりました。

そのような中、埼玉県教育委員会では平成24年度から小鹿野高校への山村留学制度の試行を始めていただきました。本年度までの11年間の留学生の入学者数は48人を数えます。この制度の影響もあり導入4年後、平成27年度の小鹿野高校への入学者数は100人を超えることになりましたが、その後入学者数は減少し、令和3年度36人、本年度は32人という状況です。町でも山村留学の試行に当たっては平成25年度から国民宿舎両神荘に留学生を受け入れたり、留学生の部活動への支援にも協力させていただいております。また、平成30年度から町外から小鹿野高校に通学する生徒に定期券の月額3千円の補助を開始し、令和3年度からは留学生への昼食配食事業を開始して、留学生の費用負担の軽減も図っています。

更に、令和元年度に町と小鹿野高校で包括連携協定に関する協定書を締結し、活力ある地域社会の形成と発展、並びに小鹿野高校の魅力化に向けて、様々な事業に取り組んでまいりました。その事業のひとつである「竹あか

りプロジェクト」は、小鹿野高校生徒と地域住民との連携により竹あかりで「地域も照らし、心も照らす」との思いの中、尾ノ内氷柱事業と連携した事業など数多くの実践を積み、埼玉県キャリア実践教育アワード最優秀賞を令和元年度、2年度と2年連続で受賞いたしました。

一方、秩父地域1市4町では、平成30年度からちちぶ定住自立圏事業に「高等学校と連携した地域振興」を追加して、県立高校4校の存続に向け連携して取り組むことで合意して以来、県教育委員会への要望活動をはじめ4校の魅力化と地域との連携・交流を深める取り組みを行ってまいりました。

しかし、本年度になり県教育委員会では「魅力ある県立高校づくり第2期実施方策案」を取りまとめ、本地域では秩父高校と皆野高校の統合計画が示されました。本地域1市4町の首長はこの統合計画に反対意向の要望を知事並びに教育長に行いましたが、この計画は成案になってしまいました。

非常に残念な結果となりましたが、今後は各高校がそれぞれ特色ある高校として魅力を高めることが重要であり、特に小鹿野高校は山村留学に県内唯一取り組んでいる高校であり、地域外から生徒を集めるための方策にしっかり取り組む必要があると思います。町としても県教育委員会、本地域1市3町と協力しながら小鹿野高校存続に向けて最大限の努力を図ってまいりたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎